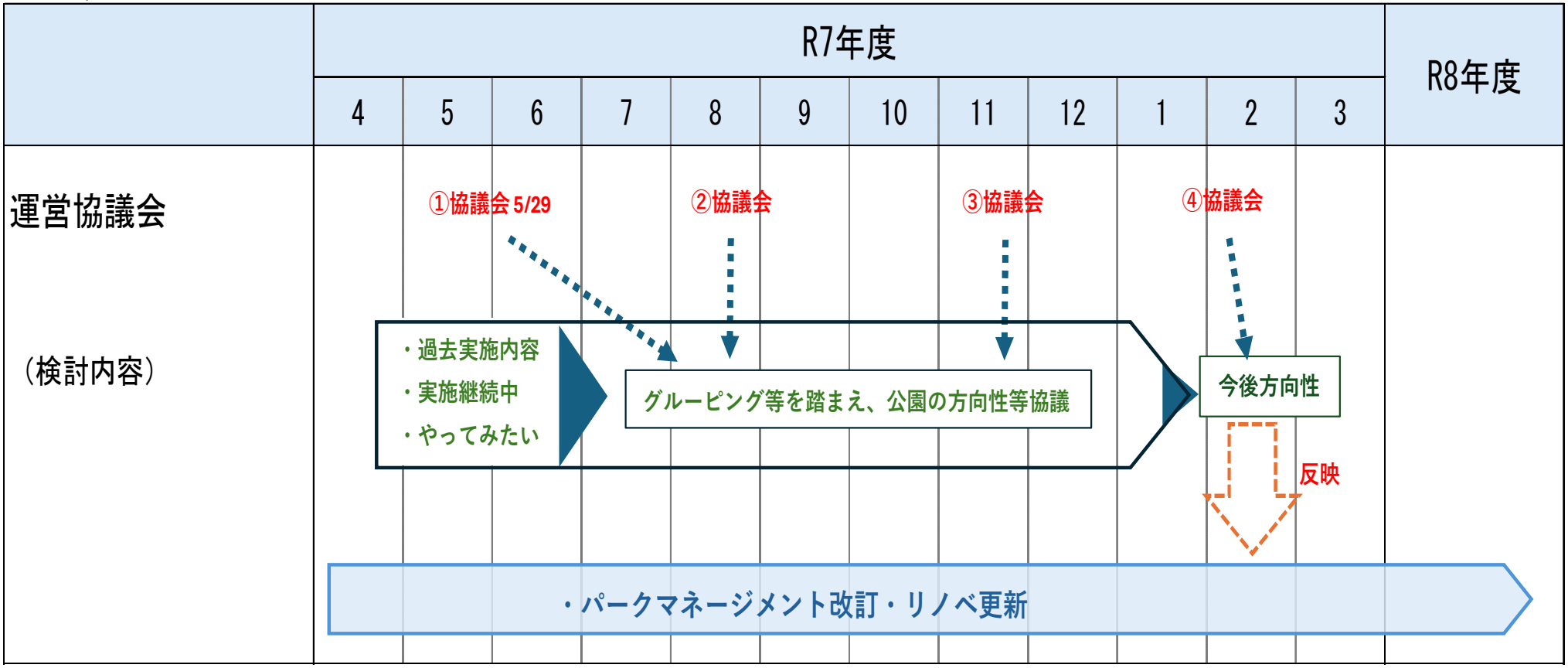
兵庫県

第１回運営協議会ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟを踏まえた
有馬富士公園の管理運営の方向性について

まちづくり部　公園緑地課

今年度のスケジュール（イメージ：再掲）

■スケジュール

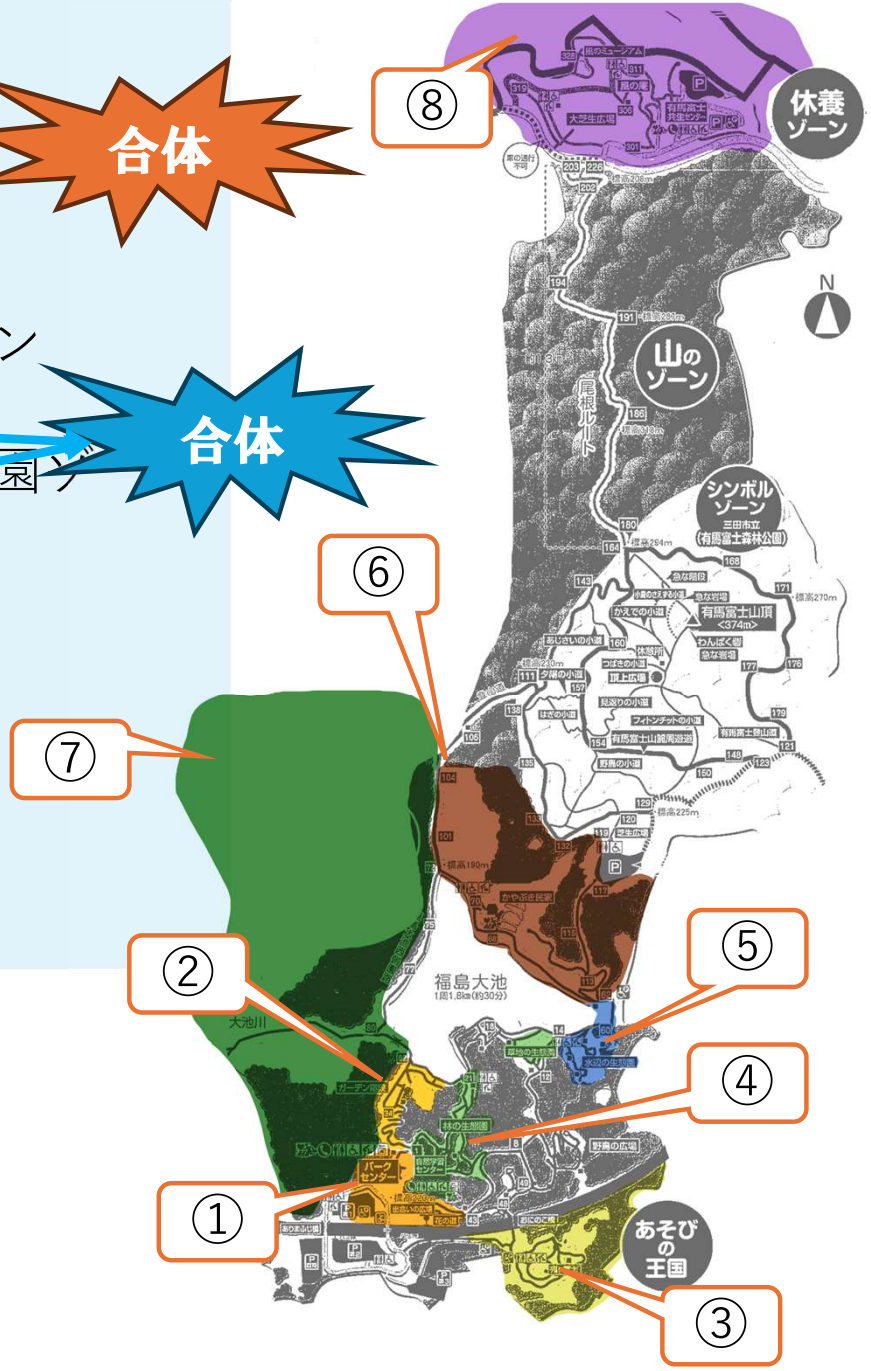


（参考）前回までのゾーン分け（暫定）～ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ提案

①子育て拠点・地域連携活動ゾーン
　パークセンターを中心とした活動ゾーン
②レクリエーションゾーン
　森を活用した自由活動ゾーン
③子育て活動ゾーン
　あそびの王国を中心に、子育て世代が集うゾーン
④環境学習拠点ゾーン
　自然学習センターを中心とした林・草地の生態園ゾ
⑤水辺生態保全・活動体験ゾーン
　水辺の生態園を中心とした活動ゾーン
⑥里山保全・活動ゾーン
　棚田、古民家等を中心とした活動ゾーン
⑦アカマツ・コナラ林景観保全ゾーン
⑧休養ゾーン
　風のミュージアムを中心とした芸術活動ゾーン

合体

合体



ゾーン分け（１回目を受けて）

①子育て拠点・地域連携活動ゾーン

　パークセンターからガーデン階段、森を中心とした活動ゾーン

②子育て活動ゾーン

　あそびの王国を中心に、子育て世代が集うゾーン

③環境学習拠点ゾーン

　自然学習センターを中心とした林・草地・水辺の生態園等環境学習特化ゾーン

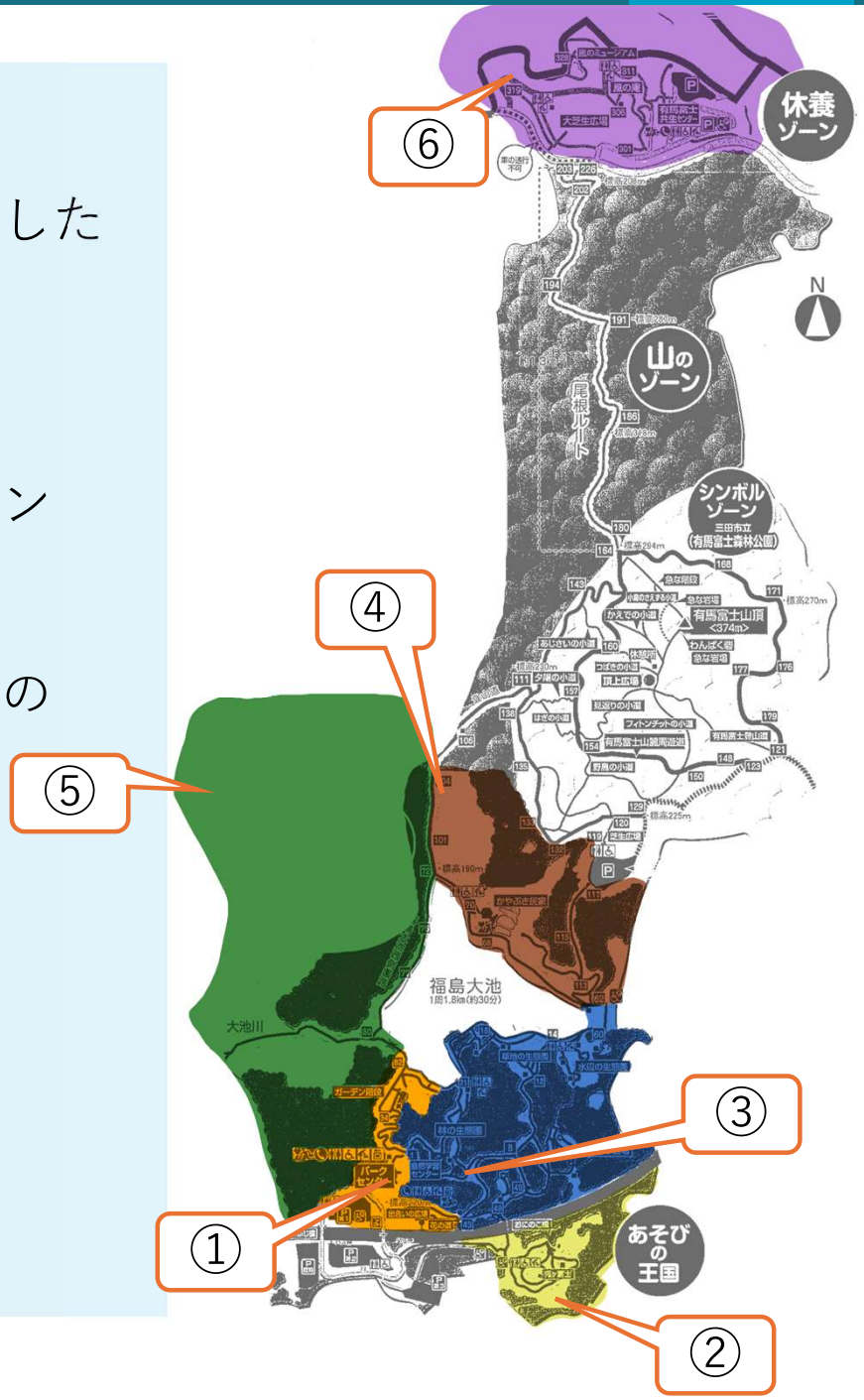
④里山保全・活動ゾーン

　棚田、古民家等を中心とした活動ゾーン

⑤アカマツ・コナラ林景観保全ゾーン

⑥休養ゾーン※今回の協議対象外

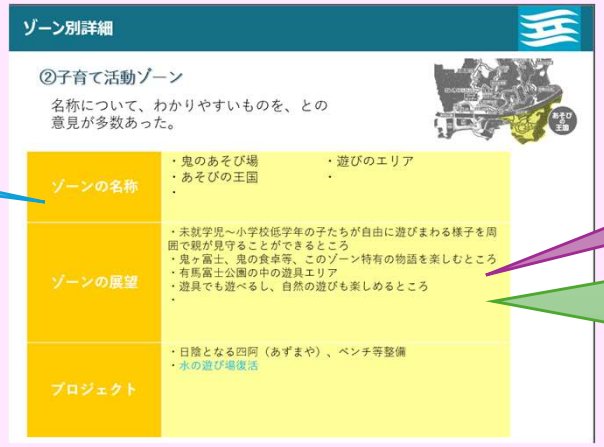
　風のミュージアムを中心とした芸術活動ゾーン



今日のワークショップについて

前回のワークショップで出た主な意見を反映させたスライドを用意しています。

こんな呼び方どうかな？



このゾーンでは将来的にこうなってほしい！

このゾーンの中でも世代別のエリア分けができるんじゃない？

⚠今回プロジェクトは、いったんこのままにします⚠

【作業内容】

今回は、主に２つのことについて、意見を出し合っていただければと思います。

①ゾーンの名称について

・前回、ゾーンの合体案が出ました。反映してみて、どうでしょうか。他のゾーンでも**合体や分割**は必要でしょうか。

・このゾーンはどんな名前が良いでしょうか。来園者にわかりやすいもの、親しみやすいもの等、**名称のコンセプトとそれを踏まえた名称の案**を考えていただければと思います。

②ゾーンの展望について

・前回、色々な展望が出ました。ずばり、このゾーンはどんなことをするところになってほしいですか。

・色々な使い方があると思いますが、強いて言うなら、**このゾーンは何をするところ**ですか。

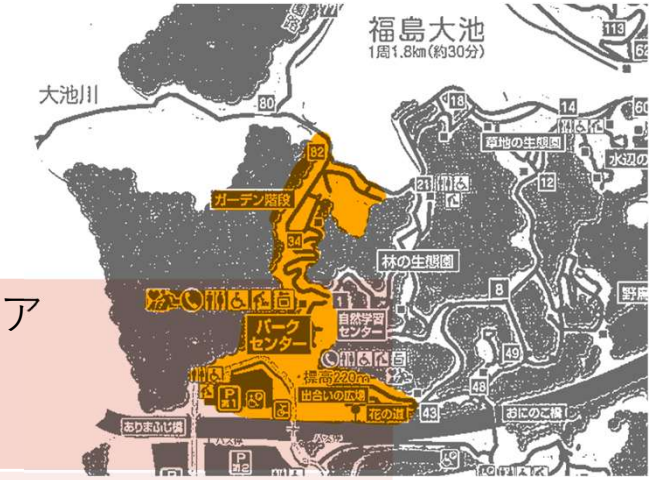
・ゾーンの中でも、小さい子向けのところ、小学校高学年向けのところ、大人向けのところ等エリア分けできるかもしれません。ゾーンを分割するかも含めて、考えていただければと思います。

①と②を行ったり来たりして、ご検討ください

ゾーン別詳細

①子育て拠点・地域連携活動ゾーン

１回目のワークショップで２つの班から
①②の合体案が出たため、再編



ゾーンの名称	・地域連携活動　・多目的エリア ・有馬富士の玄関口　・ ・
ゾーンの展望	・子どもと親が一緒に遊べるところ ・部活の子たちがいずれ夢プロの担い手になってくれる ・世代を超えた交流の場、誰でも気軽に訪れられるところ ・初心者向けの森感、自然に親しむところ ・
プロジェクト	・キッチンカー（試験実施、官民連携による飲食施設の充実） ・森の図書館 ・ハンモックで森林浴 ・ささの迷路と秘密基地 ・子どもの居場所づくり ・ハイカー・サイクリスト支援、シャワー整備 ・軽音部のライブ利用 ・制服譲り合い、古着購入・貸出 ・部活動の練習場所（屋内、屋外）

ゾーン別詳細

②子育て活動ゾーン

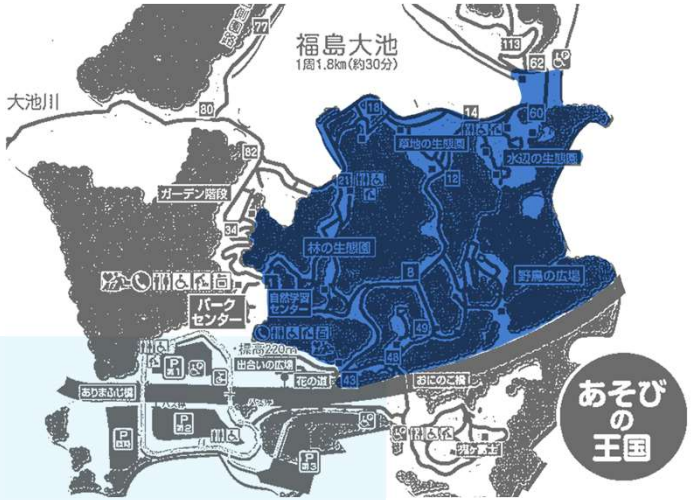
名称について、わかりやすいものを、との意見が多数あった。

ゾーンの名称	・鬼のあそび場　・遊びのエリア ・あそびの王国　・ ・
ゾーンの展望	・未就学児～小学校低学年の子たちが自由に遊びまわる様子を周囲で親が見守ることができるところ ・鬼ヶ富士、鬼の食卓等、このゾーン特有の物語を楽しむところ ・有馬富士公園の中の遊具エリア ・遊具でも遊べるし、自然の遊びも楽しめるところ ・
プロジェクト	・日陰となる四阿（あずまや）、ベンチ等整備 ・水の遊び場復活

ゾーン別詳細

③環境学習拠点ゾーン

１回目のワークショップで２つの班から
④⑤の合体案が出たため、再編

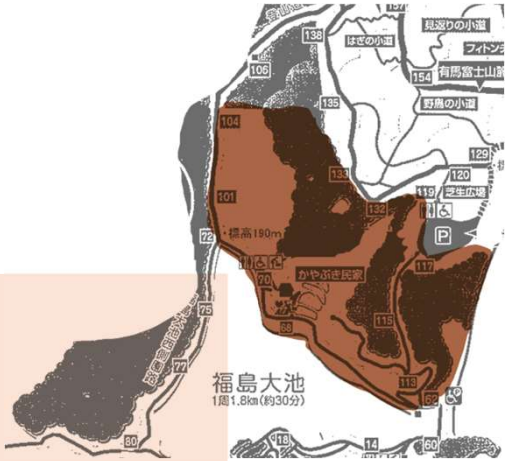


ゾーンの名称	・環境冒険　・環境探検 ・　・ ・
ゾーンの展望	・草地・林・水辺の生態園といった、多様な学習環境ができるところ ・パークセンターやあそびの王国と連動して、自然が体験できる場所にする ・
プロジェクト	・水辺の生態圏PJ ・ザリガニ釣り等自然体験を楽しめる場所 ・生物採取のルールづくり ・虫のおうちづくりPJ ・ジュニアボランティア等との連携による湿地再生・維持管理 ・子どもが遊べる親水空間 ・虫取り場所整備

ゾーン別詳細

④里山保全・活動ゾーン

具体的な活用のプロジェクトが多い。
里山整備で出た間伐材の取扱いにも言及。



ゾーンの名称	・里山暮らし　・むかしの三田 ・　・ ・
ゾーンの展望	・伐採した木をチップにしたり、他のエリアで利用できるようにして木の資源提供エリアを兼ねる ・気軽に身近に里山暮らしを体験できるところ ・
プロジェクト	・棚田里山PJ ・里山暮らしのまなび場PJ ・里山暮らし実践会 ・ウド小屋を建てよう ・焚火体験 ・炭焼き体験 ・ジュニアスタッフによる維持管理等活動 ・「里山」をテーマとしたプログラム等での火の使用検討・実施 ・在来種の保護活動 ・古民家貸し出しルールづくり ・里山の継続的な維持管理（コナラ等の低木管理）

ゾーン別詳細

⑤景観保全・活動ゾーン（アカマツ・コナラ林景観保全エリア）

現行、北摂大学の学習林という認識のため、
手が入っていない。

ゾーンの名称	・里山遊び　・自然のプレイパーク ・里山探検（冒険）　・ナツツバキの山 ・
ゾーンの展望	・南北でエリア分けし、小さい子は里山に親しみ、大きい子は探検・冒険を楽しむところ。 ・ナツツバキ個体群生育エリアでの鑑賞機会を増やし、定期的に人が入れるような里山的活用をしていく。 ・
プロジェクト	・北摂大学の学習林

（参考）ゾーン外プロジェクト一覧

今回、複数のゾーンで実施できること等の特定のゾーンに割り振れないプロジェクトについては、一覧にして掲載します。
今回のワークショップの中には入っていませんが、次回以降、各ゾーンのプロジェクトと併せて、誰が実施するのか、実現難易度等からどのように進めるのかを協議等で決めていければと思います。

・生物採取のルールづくり
・虫の減少、山芋、キノコ等減少
・外部団体のイベント誘致
・カフェの設置
・コンテナ設置（コンテナハウス）
・有馬富士カレンダー
・夢プロ伴走支援
・遺跡や青磁による「三田の歴史」PR
・ココの隣の農家さん
・新有馬富士フェス
・宿泊や夕方・夜間利用
・来園しない人向けのコンテンツ
・維持管理の人材養成講座
・バリアフリー化や危険木の処理等、安全・安心な園路等確保
・火おこし・焚火等の火を使った取り組みで防災・安全の意識醸成
（他のエリアで伐採した木を活用）
・他のエリアで伐採した木をチップにして昆虫採集
・サイクリングコース、新たな軽登山ルート
・体験型の環境学習

第１回運営協議会　ワークショップでの意見等まとめ

	A	B	C
発表分	・「ゾーン」をとって各名称のみにする ・「①子育て拠点・地域連携活動」は、子どもと親が一緒に遊べるゾーン。 ・「③子育て活動」は「鬼のあそび場」（名称） ・「④環境学習拠点」は、火が使えるような場所に。森整備の廃材を使った焚火等で、防災や安全の意識を醸成。 ・「⑤水辺生態保全・活動体験」は、できれば水に入って遊べる体験ゾーン。 ・「⑥里山保全・活動」は、伐採した木を無料配布したり、チップにしてカブトムシ等の昆虫採集に活用。 ・「⑦景観保全」は福島大池の西側エリアを南北に大きく分け、南側は遊びのプレイパークとして子どもたちが探検・冒険できるエリア。北と南の間に新三田方面に行く道があるので整備。 ・「⑧休養ゾーン」は、広い芝生をもっと生かす。ドッグランやサイクリングの他に星空を眺めるという活用。ネーミングは風にちなんだもの。駐車場を芝生のエリア近くに増設。ダムの方に行けば、サイクリングロードとの接続も可能。	①と②、④と⑤を合体させた方が良い。 ・「①子育て拠点・地域連携活動」と「②レクリエーション」は合体。 　パークセンター付近には、公園の特色・季節の特色を見せるものを作り、配置。 ・「②レクリエーション」は、夏の暑い時期に水で遊ぶエリアが少なく、ガーデン階段の方は高低差があるため、なかなか人が来ない。パークセンター（①）とつなげて一体的に考えていく。 ・夢プロが高齢化のため、学生の部活を誘致する等して、若い世代の来園を増やし夢プロの一員に。 ・「③子育て活動」の名称は「遊びのエリア」。 ・「④環境学習拠点」と「⑤水辺の生態保全・活動体験」はどちらも環境学習に関するエリアなので一体的に考える。草地・林・水辺の生態園といった多様な環境学習ができるエリアとして位置付け。 ・「⑥里山保全・活動」には、在来種の保護活動を追加。（プロジェクト追加） ・「⑦景観保全」は、北の方にナツツバキ個体群があり、年に一回ほど管理されている（観察会？）。北の方を中心に生育エリアとして掲げる。	・「①子育て拠点・地域連携活動」と「②レクリエーション」をまとめる。「子育て」ではなく「地域連携拠点」としてパークセンターという名前にする。 ・下の調整池（草地の生態園）のところまでを小さい子どもたち向けに活用。もう少し大きい子どもは「④環境学習拠点」の中に入って、探検などが楽しめる。 ・「④環境学習拠点」を少し広げ、パークセンターからあそびの王国につなげて芝生のところまで入れて、自然が体験できる場所としてもっと明確にしても良い。（①、③、④の連携） ・「④環境学習拠点」の「学習」という言葉が固いので、「探検」や「冒険」など明るい名前に。 ・「⑥里山保全・活動」は、どちらかと言えば大人の里山活動、小さい子どもが活動するゾーン、小中学校がワクワクしながら活動するゾーン、といった分け方に。（ゾーン分割？） ・「⑦景観保全」は、奥まで一本道を作って人が入れるようにする、反対に、敢えて手を加えず人を入れないようにする。 　途中で蛍がいてとても綺麗な場所があるので、そういった情報を発信して有効活用。 ・福島大池やガーデン階段の石などの歴史について知る機会を。
発表外の意見	・「⑦景観保全（アカマツコナラ林景観保全）」も里山管理として30～60分程度のプログラムで里山体験。 里山遊びゾーンのように子どもが入って遊べるように。 「秘密基地」を作ってみたりできる場所。 奥の方も自然のプレイゾーンのように。（危険な箇所はロープやテープで囲って入れないように） ・夏場の公園活用として、水遊び場（水プロジェクトみたいな）や夕涼みでキッチンカー等。	発表のとおり	・キノコの王国近くのトイレが怖い。「キノコのトイレ」みたいなネーミングはどうか。 ・山頂から福島大池までジップライン。福島大池を横断できるような遊び。（ペットボトル？）
再議論	・Ｃ班の「⑦景観保全」の話について、子どもがもっと入って遊べるように整備、虫捕り遊び等ができるようにとの意見。「②レクリエーション」とのつながりも大事。 ・「④環境学習拠点」の多目的エリアに「花の道」がかかっていないが、幼稚園児等では「②レクリエーション」まで行くと時間がかかって下りれず、１時間以内で体験しようと思うと、この「花の道」の草を敢えて伸ばして虫捕りができるような仕方を考える等、アップダウンの多い公園であることを考慮して使い方を考えると良い。 ・「⑦景観保全」の岩盤があるところから新三田まで抜ける軽登山ルートがあると聞いた。（落石のため、危ないとの意見もあり。） ・風のミュージアムのところでは、青野ダムの方へ自転車で回遊するルートとつながっているので、そのようなところと併せて利用者増加を見込めないか。たとえば、パークセンター側であれば、軽登山ルートが増えることで、車を公園に停めて軽登山で新三田まで抜けて、新三田からバスで公園に帰ってくるような利用者が増えれば、バスの便も増やすことができるのではないか。 ・薪を使った火おこしの話から防災の話が出たが、薪でなくとも日常ではあまり経験のない火おこしという体験を、防災とアウトドアの間の「サバイバル」のような言葉で少しワクワクする感じを出すと、「環境学習」より、もっと行きたくなるのではないか。 ・「⑥里山保全・活動」や「⑦景観保全」で出た木を他のゾーンで燃やすだけなく、虫が集まるようにしたり等の活用をすることが考えられるので、ゾーンを越えた活動も落とし込んでいきたい。	・C班の「⑦景観保全」に奥まで道を入れて整備しては？という意見について、この公園は今まで自然を大事にしてきているので、このエリアはしっかり景観保全すれば良いとの意見が出た。反対に、里山大学の学習林は現状、放置状態となっているので、もっと保全を明確にしてはどうか、という意見も出た。 ・中高生が、交通手段が悪くてなかなか来られないと言っていた。過去に色々と試したがバス等は難しい。例えば、新三田駅からの道沿いに「あと〇メートル」といった看板を設置すれば、頑張ろうという気にならないか。 ・三田市から環境学習の話が出たが、いわゆるお金を落としてもらう観光とは少し違うがリンクする部分もあり、体験型の環境学習によって楽しい体験をすることで、例えば少額でも無料でも、週末に公園に来るのが楽しくなると観光との連携ができる。市との連携も考えられるのではないか。	